

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「脳」が求める生き方とは・・・③（最終号）～

またまた前号の続きです。脳神経外科医で脳科学をスポーツの分野に活用した林 成之さんは・・・
「**潜在能力は誰もが持つ才能であり、それを高めることはできる。**」とおっしゃっています・・・
ただ・・・**潜在能力には大きな弱点**があるそうです。それは・・・何と・・・

最後に紹介しておきたい潜在能力の大きな弱点が・・・「**否定語**」です。

脳が情報を処理する第二段階において、マイナス感情が働きを鈍化させることをお伝えしました。

スポーツの練習でも試験の途中でも全力を投じている時に・・・「苦しい」・「辛い」・「もう無理かも」と後ろ向きの考えが浮かぶと、脳は新しい情報にすぐに反応するため、マイナスに機能してしまいます。
否定語を話すことはもちろん、頭にも浮かべない。大変難しいことですが、いたずらに練習や勉強にエネルギーを費やすより、これを徹底する方が効果的といえます。

これらを考慮した上で、潜在能力を最大限に高め、鍛え、発揮するには何が大切か。

先述したとおり、脳のたくさんの神経核が連動することで潜在能力が生まれます。

その力が発生する「**原点**」に従って「**全力投球**」することです。

人は往々にして原点を外れ、自分の都合のいいように書き換えてしまいます。「相手に勝ちたい。」「テストで周りよりいい点を取りたい。」というように・・・

既に述べた理由で、これでは脳の多様な領域が連動しなくなります。

潜在能力が最も引き出される原点とは・・・「**人のために生きる**」ことです。

具体的には「誰かに勝ちたい」ではなく「観た人が感動する勝ち方をしたい。」と願うことです。

2023年のWBCでは日本代表がこの通り、野球を通して感動を与えることを掲げて大会に臨み、見事世界一を掴みました。その極めつけは、大谷翔平選手が決勝戦直前のミーティングで放った一言です。誰もが憧れる名選手揃いのアメリカ代表を相手にして、彼は何を言ったか。

「**憧れるのをやめましょう。憧れてしまったら、超えられないので。僕らは今日トップになるために来たので。今日一日だけは、彼らへの憧れを捨てて、勝つことだけを考えていきましょう！**」

これはまさに原点でものをみている人の言葉です。原点に従って努力することで得られるものは、潜在能力を発揮するチャンスだけではありません。そういう人は誰からも愛され、運もよくなっていくことは明らかでしょう。

人のためになる原点に従って、損得抜きで全力投球する

全力投球を要する目標を掲げることもまた大切です。

変化の激しい時代ですが、失敗を恐れては決して前進できません。失敗を当然と考え、原点に立ち返り、失敗をカバーするほど全力投球をすれば潜在能力は高まっていきます。

「さらに前進」を合言葉に、脳が求める生き方を追求したいものです。

「致知」八月号 特集「さらに前進」（致知出版社）より



中学までよりさらに「思い通りならないこと」をたくさん経験する「県高生活」は・・・
これからの人生の「原点」見つけている時なのかもしれませんね。
そのためにも・・・「否定語」を使わない生活・・・意識してみませんか？